

■ 1日の埋立作業の流れとポイント

①トラックスケール搬入車両の計量を行う。

- 搬入車両が入ってきたら指定車輛、指定車輛（持ち込み）ともにトラックスケールで計量する。計量の際はエンジンを停止するよう運転手に指示する。
- 指定外車輛は空車重量を計量する必要がある。該当車輛の運転手に廃棄物を荷降ししたあと再計量するよう指示する。

②フレコンバッグの荷姿のまま展開場所で場内運搬車両に積み替える。

- 計量の際に搬入された廃棄物が受入対象廃棄物であることを確認する。万が一、受入基準を満たさない廃棄物が搬入された場合は、搬出元に、廃棄物を返却する旨及びその理由を通知したうえ、返却する。この場合、返却に要する運搬費は搬出元に負担させるものとする。
- 荷降ろしした廃棄物を、場内運搬用のダンプトラック（2 t相当）に、フレコンバッグの荷姿のまま積み替える。落下等の事故が起こらないよう、作業は慎重に行う。
- 廃棄物を確認する際には、灰の誤吸引による健康被害を予防するためマスクを着用する、突起物その他の危険物による傷害その他の事故を防ぐためフレコンバッグには不用意に素手で触れないようにするなど、安全に注意しながら作業を行う。

③埋立地内では安全作業をするために、搬入車両の誘導や荷降し場所を指示する。

- 坂路の法肩はシート固定工があるため、搬入車両などが直接乗り上げると、遮水シートを破損する恐れがある。坂路では車線が道路から外れないように注意し、必要があれば誘導員を配置する。
- 浸出水集排水管を覆った碎石部分を重機・車輛が横断する場合は、事前に覆土などにより横断路を設け、直接碎石部に乗り上げないように走行する。また、重機・車輛の場内走行路を確保し、設定したルートのみを通行する。
- 廃棄物の搬入車および作業車が場外へ出る場合は、タイヤに付着した泥などを洗車設備で必ず洗い落として下さい。重機等については、埋立地内で車両走行部の洗浄を行ってから場外へ出る。